

追憶 林文子先生

## 林文子先生の想いで

石垣 武男

林文子先生は名古屋大学医療技術短期大学部（現在の保健学科）の教授在任時に私財を投じられ健康文化振興財団を立ち上げ、この健康文化という機関誌を発刊された。放射線医学の社会へのよりいっそうの貢献を念じてのこととうかがっていた。

先生は鋭い洞察力と判断力を持ち毅然と決断される方で歯に衣着せぬもの言いは痛快でもあった。

創刊号から「健康文化」に原稿を書く機会を与えてもらい今日に至っている。小生の健康文化の原稿の出来栄えにも毎回評価が下ったものである。「あれはよかった」と毎回褒められた。しかし、ある時「今回の原稿は貴方らしくなく気合いが足りず面白くないわよ」といわれた。確かに多忙で原稿締め切りも過ぎていたので気合いが足りなかったことは否めなかった。そこで気合いを入れなおして書き直したところ合格点をなんとかもらったものである。

健康文化創刊当時、放射線医学講座は佐久間貞行教授の時代で小生は助教授であった。林先生はよく教授室に来られ佐久間先生と面談されていた。そのあと助教授室に来られ色々と私ともお話しされた。色々とお話し…といっても大体は小生に対する大所高所からの助言であったと記憶している。たまには褒められたが大体は「貴方、しっかりしなけりゃダメよ」といった口調で指導されたものである。佐久間先生と3人で食事などしていると、佐久間先生にも大所高所からの指導がたまにあったと記憶している。

先生のお話しは、しかし格調高く、かつ方向性を示す内容に富み、自分自身の大学生活の中で大いに励みになった。助教授という小生の立場を理解され、まさに叱咤激励していただいたものと思う。小生にとっては耳の痛いことを正面切ってお話くださる希有な先生であった。

ある時、「私はね、飛行機操縦するのよ」といわれびっくり仰天。「え？飛行機ですか」。「そうよ、飛行機。空を飛ぶのは気持ちがいいわよ。まわりに何もなくて自分の操縦で自由自在に好きなだけ飛べるのだから気分は最高！」とうれしそうに語るその姿には若さがみなぎっていた。「今度貴方も乗せてあげるわ

よ」と言われた。うれしいような…、怖いような…お断りしたいような…複雑な気持ちであったが約束は果たされなかった。ははなはだ残念である…と申し上げるのがとりあえず林文子先生に対する礼儀であろうか。

(名古屋城北放射線科クリニック院長)